

平成 29 年度 日立市教育研究会先進校等調査派遣研修報告書

日立市立塙山小学校 教諭 佐藤 睦

- 1 派遣期日 平成 29 年 8 月 9 日（水）、8 月 10 日（木）
- 2 研修先 8/9（水）第 51 回全日本特別支援教育研究連盟 関東甲信越地区特別支援教育研究協議会 第 53 回東京都特別支援教育研究会夏季研究大会
（調布市グリーンホール、調布市文化会館たづくり）
所在地 東京都調布市小島町 2 丁目 47 番 1 号（調布市グリーンホール）
東京都調布市小島町 2 丁目 33 番 1 号（調布市文化会館たづくり）
<https://manavia.net/community/16>
8/10（木）「特別支援学級に在籍する自閉症のある児童生徒の自立活動の指導」に関する第 2 回公開研究成果報告会
（独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所 研修棟）
所在地 神奈川県横須賀市野比 5-1-1
<http://www.nise.go.jp/>

3 研修内容

（1）特別支援教育の現状とインクルーシブ教育について

- 日本の小中学生を 100 人とする…10 人に特別支援教育が必要（6～7 人は発達障害）
- 特別支援学級担任経験年数…全体の 5 割弱が 3 年以下であり、若手教員への専門性の継承や実践力（授業力）維持が課題である。（千葉県）
- 関東の市町村の多くの場合、特別支援学級に在籍している児童は、基本は特別支援学級で生活し、学習している。（千葉県我孫子市立我孫子第二小学校の場合、支援者がいなくても一人で学習が可能な教科は、交流学級での学習に参加している。児童 5 人の特別支援学級に、担任＋支援員 2 人がついている。）
- 「社会的障壁」…本人ではなく、周りの環境をどれだけよくできるか。
- 周りの児童への指導や声のかけ方
 - ・「カッコいいおとなになるために必要な知識なんだ。」ミライロ 垣内俊哉社長より
 - ・「人は人に必要とされてこそ、幸せを感じる。人は仕事をすることで、役に立つ。」日本理化学工業株式会社 大山泰弘会長より

（2）自閉症・情緒障害特別支援学級における国語指導について

千葉県松戸市立北部小学校 明珍由子教諭の実践より

集団での活動にも適応できるよう、小集団での一斉授業の時間も必要だと考え、絵本の読み聞かせを行っていた。話を聞く力の育成や注目させやすいという利点を生かした学習であった。読み聞かせのあとには、登場人物に関する短作文を行ったり、ロールプレイを行ったりして、「話すこと・聞くこと」「読むこと」「書くこと」の 3 領域を意識して授業を構成していた。

- ① 1 人 1 冊の絵本の活用（月に 1 冊のペース）『スイミー（レオ＝レオニ 好学社）』
 - ・「全体で読み聞かせ→登場人物の心情を書き込む→ペアで発表→全体の発表」
 - ・上級生が下級生に教える場面を設け、相手に伝えるということを意識させていた。
 - ・感情を言葉で表現できない児童には、感情カードや顔シールを活用していた。
- ② 紙芝居『ちいさい“つ”が消えた日（ステファノ・フォン・ロー 三修社）』
 - ・五十音の文字が擬人化された話で、促音の学習の導入や拗音の学習を行っていた。
- ③ 聞き手参加型の読み聞かせ（最後まで集中して聞き続けられるように）
 - ・唱和型『いいからいいから（長谷川義史 絵本館）』うちわを使って、繰り返し出てくるセリフを子どもたちに唱えさせる。
 - ・増やし型『てぶくろ（ウクライナ民話 福音館書店）』登場人物がページをめくるごとに増え、出てくる順番や動物の名前を子どもたちが覚えていく。

(3) 自己理解を深める自立活動「自分研究所」の実践

東京都狛江市立狛江第三小学校 森村美和子主任教諭の実践より
狛江市の特別支援教室（通級）は、東京都のモデル事業を受け、平成 24 年度から、教員が各校に出向き指導を行う巡回型の指導を実施している。

① 「自分研究所」の取り組み

困っていることを自分で研究し、仲間と一緒に対処方法を考えていく活動である。教室を研究所に見立て、先生を所長、子どもたちを研究員とし、活動を進めている。「困っていることを話す→分析→キャラクターにして名前をつける→そのキャラクターに対する対処方法をグループで話し合い対応を考える→実践する」という流れ。

② 事例

- ・ 不安感が強い子→「不安タイプの泣き虫ゴースト」不安との付き合い方を漫画で表現し、研究。
- ・ 漢字好きで友達の気持ちに気付けない子→「漢字と気持ちの研究」で気持ちカードを自作し、気持ちカードを交流学級の児童に配ったりした。

③ 成果

自己を語り、他者と共有できる体験の場を作ることを意図的に設定していた。児童は、「僕だけではない」「友達にも苦手があるんだ」と気付くことができたようだ。また「研究に失敗はつきもの。失敗は成功のもと」を合言葉に、問題と自分を切り分け、失敗とも上手に付き合っていくことが、この研究所のよさであると感じた。

(4) 自閉症のある児童生徒の自立活動の指導

千葉県我孫子市立我孫子第二小学校 金子道子教諭より

① 支援級の概要

低学年と高学年に分けて学級編成をしているが、児童の生活年齢や交流及び共同学習の状況などを勘案し、自立活動などの指導の際、グループを別途編成している。

② 自立活動の授業づくり

ゲームやSSTが多かったが、個の実態に合わず、般化しにくいと感じ、課題を児童の学校生活上の課題に視点を絞った指導計画であった。そして自立活動の指導を、交流学級での学習場面や行事などの学校全体の教育活動に活かしていた。

④ 事例「友達と一緒に行動しよう」4時間扱い

前年度の校外学習で自分の興味関心に注意が向き、友達と一緒に行動することが難しかった児童（2年生）が、前年度の写真で振り返り、その反省点を2年生の校外学習への活かしていくといった内容である。「時間を守る」「わがままは×」など。

⑤ 成果

児童が課題意識をもって学習できているようだった。自立活動での指導が、活かされると、児童の自己肯定感や自信につながっていくことが分かった。

4 感想

- 通級タイプの良さを存分に生かせるよう、個々の実態に合った指導計画を立てていく必要がある。（交流級での教科と支援級での教科、自立活動にあてる教科など）
- 障害によりもたらされる困難さへの指導ばかりになりがちだが、「興味・関心を広げる」、「得意分野を伸ばす」といった肯定的な指導を行うことが必要であることが分かった。それにより主体的な学ぶ姿勢を伸ばしていきたい。
- 自分自身の指導の自己評価を行い、その児童にとって、必然性がある内容かを考え、指導計画を見直していく。また児童が達成状況を自己評価することで、振り返る時間をとり、より主体的に考えることができるようにしていきたい。
- 児童の主体的な発言や行動を大切にし、整理して、学習課題に取り入れていきたい。
- 児童の実態に合った単元を設定し、学校生活や学校行事に活かせるような自立活動の時間にしていきたい。また視覚的な手がかりになるように、写真やビデオをとるなどして児童の姿を記録し、振り返りができるようにしたい。